科学技術の目覚ましい進歩の中で

近藤　朗

「貼り紙禁止」という紙が壁に貼ってあった時代が懐かしく思えます。私が若かった頃には紙媒体で情報を伝えることが当たり前で、それが一番よい方法だったのだと思います。そのような時代を生きてきた者にとっては、今でも新聞広告や折り込まれてくるチラシなどに目を止める習慣があるようです。

最近、デジタルサイネージ（映像による電子看板・掲示板）という言葉を耳にします。実際、従来の看板に代わって屋外や店頭などで目にします。今後、デジタルサイネージの普及により「いつでも、どこでも、誰にでも」更に「今だけ、ここだけ、あなただけ」の情報提供が可能になるそうです。

このような科学技術の進歩は間違いなく学校教育にも大きな影響を与えることでしょう。スマートフォンやタブレットとつながることで、自分にとって必要な情報を即座に手に入れることが可能になります。学校で先生から教わるよりも、効率的に、どこにいても、何度でも学ぶことができるわけですからすごいことです。人間の先生に代わって機械が先生となる時代はそう遠くなさそうです。

しかし、昔からそうであったように、二十四時間で一日、三十日で一か月、十二か月で一年という時間の流れは今後も変わることはありません。機械が身近なものとなったとしても、生活リズムを保ち、一日一日を楽しく充実したものとする心持ちが大切になってくることでしょう。

一方、世界人口は七十三億八千万人。今後五年間で三億五千万人増加すると言われています。人口減少期に入っている日本とは対称的に世界の人口カウンターは驚くほどの速さで増えています。これからは、身近な人とのかかわりを大切にするとともに、これから出会うだろう人たちと素敵にかかわっていく力が求められることでしょう。

このような時代に向かう中、学校は必要な知識や技能を身に付けさせるとともに、生活リズムの作り方や人とのかかわり方を学び、好ましい習慣を身に付けること、切磋琢磨しながらも思いやりや助け合いにより協働して物事を成し遂げようとする態度を養い、力を身に付けさせなければなりません。

新潟小学校の今年度の教育活動も大詰めを迎えています。この観点から一年を振り返り、子どもたちの成長を確認したいと思います。